

# パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2009年7月1日

70号



UPF（天宙平和連合）主催の平和大使の集いにて柴沼南北米事務局長が講演  
『パンタナール保全と貧困対策：奉仕文化の構築』

平和大使の集會にてレダの歩みを「パンタナール保全と貧困対策」「奉仕文化の構築」と題して行いました。東京、世田谷の烏山区民會館の集會所に八十名近くが集まり午後二時から始まりました。

年齢層も二十代から八十歳近くの方もおり、関心の深さが年齢を越えていることがとてもうれしく感じました。集會の初めにレダの歩みを10分ほど、映像で見てもらい、レダでの歩みの状況を理解してもらった上で柴沼事務局長がパワーポイントを使い、レダ開発の進展状況と目的を話しました。

現地の人たちとの共通の労働を通して、相互理解を深める。そのため、奉仕文化の中心的精神である、“ために生きる”を実践する。

パンタナールの自然を保全するため、パンタナールの自然の美しさと生態系の豊かさを写真で見、実感してもらおう。エコツーリズムを通し、生態系の保護の大切さを伝え、現地に資金も落ちる準備をすすめる。

国際協力青年奉仕隊の活動を通じ、近隣のインディヒナの村に学校を建設し、植林活動を展開し、教育水準の向上と現地に相應しい農業と産業を興す準備をすすめる。また、日本からの青年達が国際化に目覚め、インディヒナの村人との交流を通して、奉仕に対する基本的な考え方が確立される。自己満足でなく、相手のためになるとは何かを真剣に考え、ふさわしい奉仕の形を現地を理解しながら構築する。

レダの厳しい土壌を土壌改良をなし、また、ニームから採れるエキスにて有機栽培を進め、その成功を近隣の村に進めるため実験農場をなす。

レダと地域社会でなして来た学校建設、植林活動が評価され、国のリーダー達が関心を持ち、奉仕文化が他の地域にも拡大して来た。等の観点から、説明し、最後に奉仕は義務から行うのでなく、奉仕の結果、喜ぶ人々の姿に接し、進んで喜びを創造したいとの愛の気持ちから行うことが重要であると締めくくりました。



到着した新人アルベルトを中心に左がパブロ、右がウイルソンの各氏（食堂前にて）

### 三人の南米在住の

### 南北米メンバー勤務

パブロさん（夫人共にパラグアイ人、三十七歳）は、既に数年メカニック担当で、金子先生の下で勤務して来ました。

コンセプトシジョンに妻と幼い子供二人がいますので、二週間毎の勤務で、アキタバンで通って来ます。自動車修理工場に働いていただけに、車両関係の修理はもとより、金子先生がいない現在中田先生のもと、この部門の中心に立って働いて来ています。汚れ仕事もいとわずに快く責任を果たしてくれています。『ここで働けることは誇りです！』と笑顔で答えてくれます。

五月からウイルソンさん（チリ人、四十一歳、夫人はブラジル人）を採用することになりました。

人事、経理関係を中心に担当してもらおう予定ですが、5月、6月は見習い期間のため、総合的に色々な分野をやってもらいました。

労働者と一緒に、切り倒したヤシの木を二m程に裁断し、運ぶ作業もやってもらいました。

『なんで木を持ち上げる時に皆はゆっくりにするのだから、と不思議に思いつながら自分もさっさと持ち上げていたら、注意されて初めて分かりました。材木の下にはよく毒蛇がいるのだそうです。実際今日遭遇し、びっくりしました。』と笑って言っていました。

『日本の大先輩がこうしたところで黙々と働いて来たのだから、自分もがんばります。』と明るく答えています。

今日、もう一人メンバーが加わりました。アルベルトさん（パラグアイ人、妻は日本人、三十一歳）です。彼もかつてパブロさんと一緒に自動車修理工場に勤務していた人で、彼には常駐してもらおう予定です。

パブロさんが不在の一週間の時も、継続働いてくれますので、パブロさんのアシスタントとして採用し、メカニックの部門を強化することにしました。早速今日からパブロさんと一緒に勤務してもらっています。無口ですが真面目にやってくれそうです。



### 所在地表示用杭の立替開始

所在地表示用杭は立ててから数年経ち、文字が消えかかったり、トラクターでの草刈りの時折れたり無くなっている杭が多くなってきた為に、新たな杭を樹の近くに立てる作業を始めました。

新たに立てる杭は、トラクターでの草刈りの邪魔にならない事、立てる際極力木の根を傷めない事を考慮して、従来の杭と比較すると長さは同じですが、太さを約半分くらいのサイズにしました。杭の寿命を長持ちさせる為に、土中に埋まる部分と少し上までにコールトールを塗り、所在地を書く所は白ペンキを塗り、文字は従来の消え易いマジック書きからペンキ書きに換えました。

とりあえず約800本の杭を立て替え、将来は何時誰が見ても分かるようにする為に暫時全数を立て替えないとと考えております。





**ニーム液がすごい** (大滝氏報告)  
 ニームの果実(果肉)の中にある種子(核)を乾燥させたものを粉砕機で砕き、種子の十倍の水を加えて絞った液を噴霧器でかけてあるポロトA、B、Cの三地点を撮影しました。その二日後の結果は写真の通り、A地点及びB地点では寄生していたアブラムシは完璧に駆除されていました。  
 しかしC地点では全く駆除されていませんでした。この原因は私たちが六月九日に撮影に行った時、三人の内一人は立ったままで消毒してしまいました。その結果ニーム液がアブラムシに充分にかからなかった為だと思います。ABC以外のポロトでも殆ど駆除されており、ニーム液はアブラムシに対し効果有りの判定が出ました。



A地点では6月9日にニームのエキスをまき、6月9日時点では完全に駆除されていた。



B地点でもA地点同様駆除された



C地点では駆除されていませんでした。

# 第九回国際協力青年奉仕隊 参加者決定 (八月二十五日-九月十日)

多くの応募者の中から厳選された十名の方が第九回国際協力青年奉仕隊の隊員としてパンタナールに派遣されることになりました。

一八歳から一九歳までの学生ならびに青年です。小論文の内容も素晴らしく、今回の奉仕に参加することにより、今後も継続し世界のため貢献してくれると期待でき、必ず、第九回も成功できると感じました。すでに多くの方の支援を受け、現地に持って行く衣類、文具等もたくさん集まっています。ここから感謝します。

第九回青年奉仕隊も皆さまの温かい支援でなされます。左記の口座に本年もよろしくお願ひします。

すでに、五三〇万が集まりました。心から感謝します。当初の予想以上に現地の植林活動が大きく進められることになり、必要な経費も七〇〇万円近くになります。再度のお願ひで恐縮ですがよろしくお願ひします。

郵便口座

一〇一八〇一

七七八八〇四七一

代表 柴沼邦彦

## 支援のお願い

ご家庭に眠っている未使用の切手、はがき、印紙などがありまして事務所に送ってください。



「私の子供の頃の夢は砂漠の緑化でした。広大な砂漠を緑化できたらどれだけ素晴らしいだろうかと本当に思っていました。大人になりそんな気持ちをすっかり忘れていた気がします。」

去年は清掃プロジェクトのリーダーとしての責任分担を与えられた中で荒川河川敷の清掃や植林、足立区の防犯の啓蒙活動、町会のイベントのお手伝い等の様々なボランティア活動を経験させて頂きました。そういう中で多くのことを学んだつもりではありますが、海外でのボランティアというのにはまた全然違った経験をさせて頂けると思いますし、視野が狭い自分でもあるので、異文化に触れるというのは非常に価値のある内容だと思ひ、参加していきたく思いました。

ボランティアで為に生きるということを考えた時にただお金や物を支援するのではなく、共に汗を流し、共に生活することが一番のために生きる内容だと思いますので、この活動を通して、自己満足ではなく神様が喜ばれるボランティアという観点で本当に一生懸命頑張っていきたいと思ひます。」

(今回参加決定した男性の小論文)

「中学時代から環境保護に興味があり、農林高校にてバイオテクノロジーについて学び、農業大学(短大)にて森林総合学を専攻し、環境問題と森林について学んで来ました。」

環境保全に携わる仕事をしたいと願ひながら、今までその機会をつかむことが出来ずにいました。

しかし、今回、このような活動を推薦者の方から薦められていただき、そのチャンスが与えられた！と感じ、応募できる事をとて嬉しく思ひます。

開拓がどのように行われて来たのか、どのような実を結んだのか、今、実際行われていること、今後、願われていることを、現地での活動と交流により、リアルな現状を知り、実感し、伝えたいと願ひています。(女性の小論文)

## 南北米福地開発協会会員の募集

南米、パラグアイパンタナール地域への植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会員は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

## 南北米福地開発協会 事務局

〒一一三三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七八八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp